

札幌市教育委員会との話し合いの報告

12月9日（木）午後4時15分より、札幌市教育委員会と窓口レベルの話し合いをおこなっております。

生涯学習推進課 木村課長、伊藤係長、上野主査
北海道に夜間中学をつくる会 泉事務局長、飯塚・白倉事務局次長
札幌遠友塾 富田副代表

10月15日（金）におこなった話し合いの際、後日、生涯学習部長や課長と話し合うことになっていましたが、部長の日程調整がつかないため、課長との話し合いになりました。

冒頭に、先の「話し合い報告」、「こんばんは。遠友塾です！第2号」、「きぼう会報 No.7」をお渡ししております。

また、向陵中学校に掲示板「ふれあい広場」を設置いただいたことのお礼を述べました。

先の話し合いの際、授業時間や科目数を増やし、「基礎教育の充実」をはかるのが遠友塾の優先課題であることを述べました。そのため、向陵中学校にお願いしたいこととして、つぎのような事項を挙げました。

- ① 2階多目的室を午後5時から使用することができないだろうか。
- ② 次年度（2011年度）は授業時間確保のため、4月13日（水）からの教室利用の要望。
- ③ 仮に、週1回水曜日に3授業数にするため、現行9時までの利用時間を延長することができないか。

これらのことについて、市教委は事前に学校長と話し合ってくれておりました。

学校長の見解として、平成24（2012）年度実施の「新指導学習要領」で授業数が1時間増えることで、それにともない部活時間も延びることが予想される。また、向陵中学校は生徒数が増えおり教室不足の状況である。今後は、余裕教室（教材置き場）などを教室にすることも考えられる。実際には、これが実施されてみないと先の見通しをたてることができない、と述べられたことが伝えられました。

その上で、①については、学校活動で5時30分まで使用しており、時間の繰り上げ使用は難しい。現状、午後6時からの教室使用に、午後5時30分に玄関の鍵を渡し、遠友塾が入校していることは黙認している。②については、

すでに遠友塾からの申し入れを受けている。③について、午後9時30分までの延長は可能である。また、曜日を増やすことについては、学校の長期休業（休み期間）などでの利用は検討できる。

これらの要望事柄は3者協議を開催し、確定をしていきたいと述べられました。

これに対し、私たちは学校活動の支障になる要望をおこなうつもりもなく、節度をもって話し合をしていきたい。

玄関の鍵は、午後5時30分に受け取っているが、受講生やスタッフの入校は午後5時45分としており、その前の入校はしていない。午後6時を過ぎて生徒たちが教室に残っている場合は、廊下で待っていることなど、入校にあつての遠友塾の運用状況を説明しております。

また今回、学校長から伝えられたことは、遠友塾内部で話し合つてまとめていくと返答しました。

この後、課長から私たちの「共同事業」の申し入れについて、市教委の考え方が述べられました。

教室利用については、市教委からの「便宜供与」であるが、市教委は遠友塾の活動に対して責任をもっていると認識している。そのため、遠友塾の学習環境の整備について、できることとできないことがあるが支援をしていく。また、いまはまったくない話だが、仮に向陵中学校の教室が使えなくなるようなときは、同等の条件で別の学校を使えるようにする。

市民や他団体との公平性では、戦前や戦後の義務教育を受けられなかった人たちでは問題がないが、不登校などの若い人たちの受け入れではそれらと重なる部分もでてくる。

広報についても、市教委 HP で遠友塾の活動内容や応募などどのようなことを広報するかは相談したい。市教委に HP 以外のメディアがあるのでそれを使った広報についても具体的に相談したい。

いままで通り、市教委としては「できないことありき」で話をするのではないので、具体的に要望をだしてもらいたい。その上で、たとえ「しくみ」であつてもできることできない、できるためにはどうすれば良いか決めていきたい。

生涯学習部では、「市民が生涯にわたつて学び直しや学びの基礎力の習得」の事業は実施していない。いまの事業は生涯学習センター（ちえりあ）でおこなっている内容（講座）である。

市教委は遠友塾の活動に理解を示しながら、言葉を選びながらも丁寧な説明をしてくれました。そして後日、3者協議の日程が示されます。